

編集・発行

社会福祉法人

阪神共同福祉会園田苑

広報

〒661-0972

尼崎市小中島 1-1-18

Tel:06-6493-3731

私たちの目指すもの

一、地域に開かれた施設

二、入居者、家族、施設、地域のみんなで作る福祉を！

三、老人と共に生きがいを見い出す生活を！

社会福祉法人阪神共同福祉会園田苑



子ども食堂@野土香
小学校の春休み期間に宅老所のどこで行った子ども食堂。最終日に記念撮影をパチリ☆



『B面昭和史』を読みながら浮かぶ人

理事長 中村大蔵

ボランティア“園”の故平野繁子さんは、「私が15の時に産んだ息子がコレです」、と私をよく紹介していた。それはそれで信用する人もいて、結構おもしろかった。人をひきつける何かを持っている平野さんだった。その上に、平野さんは本が好きだった。その一冊にベストセラーとなった半藤一利の『昭和史』（平凡社刊）がある。

半藤さんはその姉妹編と言える『B面昭和史』（同社刊）を、今年の2月に刊行した。著者は、「民衆がかつてどんなふうに政府にだまされ、あるいは同調して戦争に向かったのか。これだけは書き残しておきたかった」と記している。半藤さんは最近の世相に、「不気味な時代がやってきた」（サンデー毎日 4.15号）と警鐘も鳴らしている。

私の母（93）は、どこから見ても保守的な人物であるが、最近、「安倍首相は絶対許せない」とよく口にする。母にあらためて尋ねると、「安倍は徴兵制の導入を考えているから危険だ」と言う。戦前戦中の生活実体験がそうさせているのだろう。

『B面昭和史』を読みながら、社会政治問題をごく普通に話題にしていた平野さんを思い出した。そう言えば半藤さんも平野さんも1930年、昭和5年の生まれである。

桜も待っていてくれました！！

園田苑お花見 4月9日（土）善法寺公園にて

4月9日（土）に善法寺公園にて花見をしてきました。私は去年4月に入職し2回目の花見ですが、去年は残念ながら雨天のため室内でした。今年は、なんと！！晴れました。快晴の下で花見を行うことができました。

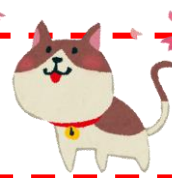
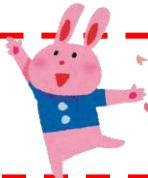


そして私が司会を務めさせて頂きました。初めての司会で色々方々から指摘を受けながらも司会進行をしていました。その際、私は非常に緊張しておりボランティア園さんのことを「ボランティア園（えん）」と言ってしまっていたのと、閉会なのに「開会」と言ってしまいました。すぐさま指摘が入り、訂正しました。失礼な間違いをしまい大変申し訳ないと思い、閉会后謝罪に伺いました。



入居者、利用者にとっては、暑かったと思います。お弁当の遅れなど、予定通りには進行できませんでした。が、笑顔、手拍子、中には歌っている方もいらっしゃり盛り上がったと思います。理事長、施設長、職員、ボランティアさん、入居者、利用者、ご家族様。かみまくりの司会の家門でしたが、最後まで見守って頂いてありがとうございました。

（特養 ヘルパー 家門 孝光）



宴の終わりに桜吹雪！！

～グループハウス～ 4月6日（水）橘公園にて



今年は絶好の花見日和となり、ご近所さんもお誘いし、理事長、入居者の皆さんで橘公園へ行きました。

音楽を聴きながら大嶋さん手作りのお寿司やオードブル、お酒も入り満開の桜の下で美味しく頂きました。

宴の終わりには、桜吹雪も舞い、来ていた皆さんから笑顔と感激の声が聞こえました。最後に桜の下で記念写真を撮りました。

「来年も元気で来れますように」
（グループハウス 谷井 利彦）

野土香で「子ども食堂」を

「こども食堂」って、ご存じですか？ここ日本で、食事を十分に摂れない欠食状態の子どもが6人に1人居る…戦後間もない日本ならまだしも、この飽食の時代に、そんなことがあるのだろうか？と正直思ったけれど、給食のない夏休みに痩せてしまう子どもたちがいるという現実を初めて知りました。

園田苑でも出来ないか？お年寄りの昼食会をしている野土香(戸ノ内)を利用できるのでは？食事を作ってくれるボランティアさんもいるし！と、話がドンドン進んでいって、春休みの3月22(火)～4月6日(水)までの、(月)(火)(水)の8回を実施することになりました。



3月30(水)のメニューは餃子、なんと子どもの参加者21人。とにかく、猫の手も借りたいワシャワシャの中、餃子の具を包むのは、お年寄り子どもたちにもお願いしました。お年寄りのKさんが、餃子の皮の包み方を、丁寧に子どもたちに教えたり、YさんやMさんは「私、知らんでー」と言いながらも、おしゃべりしながら包んでくれたりと、なんか楽しそう！普段はお年寄りだけの静かな食事会ですが、子どもたちを見るお年寄りの目が、とても優しく感じられます。



また、子供のお母さんが、妹の双子の赤ちゃんと一緒に連れて来てくれて、その子をMさんが抱っこしてくれたり、あの狭い部屋は4世代が集まり、それはそれは大賑わいでした。200個以上の餃子を、どんどん包んで、ホットプレートでどんどん焼いて、子どもたちはどんどん食べて…あっという間の3時間。「今度は来週の月曜日やで、また来る？」「来るー！何作るの？」「お好みや、好きー」と、とても楽しみに待っていてくれました。

本当のところ、どれだけの「食べること」に困っている子どもが来てくれたのか、わかりません。でも「野土香」という、畳の部屋のある民家で、お年寄り子ども達が時を過ごし、一緒に食事を食べることは、お互いにとても良い空気を醸し出していました。

最後に、今回の「こども食堂」にご寄附や食糧、おやつを提供を下さった皆さん、調理のボランティアに来て下さった皆さん、その他たくさんの方々に支えて頂きました事、感謝いたしております。大変有難うございました。(支援センター長 物部 幸代)



皆が安心できる場所づくりを地域の方と一緒に

先日、「こども食堂」のお手伝いに行ってきました。野土香に伺うのは初めてで、Zenのご利用者の方からよくお話を聞かせていただいていたので、楽しみでもありました。おじいちゃん、おばあちゃんの家にお孫さんが遊びに来ているような雰囲気でもとても心が温くなりました。

この日のメニューは「ロコモコ丼」。私は、昼からのお手伝いですでに食事は済んでいたのですが、感想を聞いてみると「とても美味しかったよ、ロコ何とかっていう丼やった、めずらしいもん食べさせてもらったわ～」と喜んでおられました。

隣では、ペタンと座り込んで子供たちと遊んでいるお年寄りの姿が。少し照れくさそうな子供の笑顔とそれを見守るお年寄りの優しい眼差し、素敵な時間がそこには流れていました。

近頃、嫌な事件が多い世の中でここは、子供たちにとって「自分が安心できる場所」の一つであったのではないかと思います。

先日、また震災という悲しい出来事が起こってしまいました。

いつどこでも起こってもおかしくない震災。

日頃からの地域の方々との交流・連携が一人暮らしのお年寄りの方や小さな子供たちを守るうえでとても大切なことであると思います。

(デイサービスセンター Zen ヘルパー 乗富 祐記子)



園田苑からのお知らせ

ハッピー!!ちどりコンサート

5月20日13時～園田苑2階食堂にて。観覧自由。

杭瀬地域学習館にて活動されているグループ『杭瀬ちどり』が

園田苑のステージに再来！なつかしの歌、ふるさとの歌を披露して下さいます。

青空喫茶

5月7日12時～15時園田苑の前ロータリーにて。

藻川にたくさん泳ぐこいのぼりを見ながら、オープンカフェでお茶しませんか？

どなたでもご参加自由！和菓子洋菓子取り揃えております。ご来店、お待ちしております♪

熊本地震

園田苑の苑庭での街頭募金は 75,714 円を皆さんからお預かりしました。理事長の中村、職員の秀石、深津が4月27日より被災地にて支援活動を行っています。次号で詳細をご報告させていただきます。



編集後記

スタートの春といきたいところですが、相変わらず年度末感を引きずっています。あつという間に夏が来そう。
(きりん)

常々、年が過ぎるのが早いと思うこの年齢でさらに最近ではあつという間に1年が過ぎていきます。

年がいくほど、噛みしめて日々を過ごしていきたいと思う今日この頃です。
(だるま大使)

非常時はいつ来てもおかしくない。

さて、私は災害時に持ち出せるものや集合場所の確認など自宅で、職場で何を備えているだろうか。物の整備と人とのつながり。

浜保育園の新しい設備と建物への思いに感動するとともに非常時は地域の方が避難してこられることを想定して本気で人と物を備えて行かなければならないと思います。
(きんたろう)

嵐のように過ぎ去った「春休みこども食堂」思ったことが半分も出来ず、反省も多かったが、思ってもみなかったことに遭遇したこともまた事実。

私自身の中では、こども食堂というより、地域の居場所としての「野土香」の役割やあり方を模索することが出来て有意義だった。

とにかく、ボランティアさんから「改善する」とはして、また夏休みに」との言葉が出たことが、成功だったことになると思う。

「あく賑やかすぎる」と言っているお年寄りが、利用日でもないのに毎回顔を出していたのは、ほほえましい風景だった。

あせらず、急がず続けていきたい。

(野の花)